

漢字を学習すると頭が良くなるわけ

このごろ、漢字を学習させている幼稚園が多くなりました。その理由はいくつもありますが、その一つは、「漢字学習をさせると、幼児の頭が良くなる」という事実が、次第に明らかになってきたからです。

「頭は使えば使うほど良くなる」と言われていますから、どんな学習だって、頭を良くするわけですが、とりわけ漢字学習が良いというわけは何でしょうか。

鳩と鶴が同じ仲間、蟻と蝶が同じ仲間であることは、漢字で学習した子供はだれでもひとりでの理解し、そのため、物をまとめたり、分類したりする態度や習慣がひとりでの作られていきます。だから、まだ習わない漢字を見ても、「鶯は鳥の仲間だな」「蟬は虫の名前だな」という風に推理します。

“はと”や“つる”という表記で学習させでいたのでは、こういう態度や習慣は、いくら育ててやろうと思ってもなかなか育てられるものではありません。それどころか、“はと”と“つる”が同じ仲間であることを理解させることが困難です。「“はと”も“つる”も“とり”と言って同じ仲間だよ」と教

えてみたところで、幼児にはなかなか理解できないでしょう。

鳩、鶴、鳥という漢字を知っている子供なら、「鳩も鶴も鳥と言って、同じ仲間だよ」と教えてやれば、いっぺんに理解するでしょう。しかし、そんな事は、教えてやらなくても、そういう漢字に触れ、読んでいるうちに、ひとりでの考えつき、まだ習わない漢字を見ても、それを自分の今までの知識を総動員して推理し、判断するようになるのです。

漢字学習をしている幼児は、推理力、想像力、判断力などにおいて、普通の幼児に比べて断然優れています。だから、知能指数なども驚くほど高いのですが、これは当然のことと私は思っています。